

# 令和7年度 訪問看護ステーション事業計画

基本理念 事業運営体制の整備を図り、高齢社会及び多様なニーズに対応できるよう努力し、地域社会に貢献するとともに、私たち自身も地域の方と成長し共に満足を得る。

基本方針 1. 高齢者及び療養者の家庭における療養生活を支援し、心身の機能回復を目指します。  
2. 最期まで住み慣れた地域で穏やかに過ごせるように関わります。

長期目標	訪問看護ステーションの質の向上に努め、安定したサービスを提供する
短期目標	自己評価を行い、知識・質の向上を図り、意欲や向上心が湧く職場を作る

## 1. 事業計画

(1) 人材確保・質の向上に努め、継続した訪問看護を提供

- ① 利用者数、訪問回数等を考慮した人材確保
- ② 外部研修やS－Q U E訪問看護研修参加等での知識・質の向上
- ③ 職員の安全（災害・感染対策、暴力、ハラスメント対策等）を守るための体制強化と教育
- ④ I C T・オンライン会議等を活用した働き方改革
- ⑤ P D C A（計画、実行、評価、改善）サイクル手法での業務改善
- ⑥ シミュレーション研修や検証・改善を行いながらのB C P運営
- ⑦ 看護学生実習の受け入れと看護の魅力伝えることによる後進看護師の確保

(2) 満足感を得られる在宅看取りを支援

- ① 事例検討会・研修会への参加
- ② 多職種との情報共有・連携体制の深化

(3) 地域包括ケアシステム体制の深化

- ① 自立支援・在宅緩和ケア等での協働・連携体制の深化
- ② 独居高齢者が安心して生活できる体制の深化

## 2. 研修計画

趣 旨 介護保険・医療保険制度運営の要となるよう、職員に対し継続的に研修を実施し、必要な知識・技能を習得することを目的とする。個々の職員の経験、知識等を考慮し、新人・現任・全体の研修を設ける。それぞれが直面している問題を把握し、実際のサービスや施策を踏まえた研修を実施、積極的な研修会参加を促す。

(1) 職員研修

- ① 2025年度S－Q U E訪問看護・介護ケア講座、研修プログラムの実施
- ② 訪問看護財団等のW e b研修の受講
- ③ 看護協会等の外部研修への参加

(2) 新人研修

- ① 就業規則と業務上の注意事項
- ② 感染対策と事故防止
- ③ 防災対策
- ④ 接遇研修
- ⑤ 実地研修（同行訪問）
- ⑥ 常勤新任教育は、看護協会や訪問看護財団の訪問看護基礎講座を受講

### 3. 訪問看護ステーション運営の現状と課題

#### (1) 利用者数・訪問回数の減少

年間累計利用者数については、令和3年と4年の1,500人以上（月間実人数120～130人）をピークに、減少が続いている。医療保険（精神科を含む）での利用者数は増加傾向だが、介護保険については5年前と比較しても、50～100人の減少がみられる。要因として、頻回に訪問していた利用者が、高齢化に伴い入院したり死亡したり、また介護する家族も老々介護により在宅支援が困難になり、利用者が施設入所したりと、訪問回数が減少したことが考えられる。

今後も医療保険では、最期を在宅でと希望されるがん末期利用者、介護保険では、高齢化率がピークを迎える2040年までは新規利用者が見込まれるが、安芸高田市の人口が減少で推移している現状からは、今後も利用者数減少が予測される。

#### (2) 介護保険による60分訪問の減少

5年前は介護保険の60分訪問が約8割だったが、現在は6割に減少し、30分訪問が増えている。今後は加齢に伴い支援時間が増えると考えられるため、ケアマネージャーと連携を図りながら、60分訪問に移行していきたい。

#### (3) 人材確保

5年前は常勤3名と非常勤7名の10名で勤務、非常勤については歩合制で訪問していたが、4年前より時間給に変更になっている。現在は常勤3名と非常勤5名の8名で、約120名の利用者を訪問、訪問地域が安芸高田市6町と安佐北区白木町の計7町と広範囲なため、北・南の2チームに分かれ訪問している。看護師は2名減少したが訪問回数も減少しているため、一人が1日に3～5名訪問、現在の利用者数や訪問回数を考慮すれば人材確保はできていると考える。

しかし、子育て世代が半数を占め、また親の介護が必要な世代でもあるため、休みが重なると訪問に影響がみられる。管理者を含めた看護師で訪問調整するが、管理者の訪問件数が増えると、管理業務が怠る上に、1.7倍の訪問料が発生するため、余裕を持った人材確保が必要である。また、50代の看護師が4割を占めているため、後進看護師を育成する必要もある。現在、求人はしていないが、新採用者が必要になれば、長く働き続けられる労働環境の整備が必要と考える。

24時間・緊急時対応は、利用者やその家族の安心につながる訪問看護の醍醐味である。しかしながら、夜間や休日に緊急対応するための待機当番の負担が大きく、待機手当についてはいくらかの改善は図られたものの、パート職員が多いこともあり対応できる職員が少なく、体制の確保が非常に難しい状況がある。

また、将来的には電子カルテを含むICTやDXを活用することも考えられ、これらを導入することで煩雑な業務が見直され、働きやすい労働環境につながると考える。